

三島村近海の魚について学ぶ漁業体験支援

鹿児島地域振興局 林務水産課

【背景・目的】

三島村の人口は減少（昭和35年の1,363人から令和3年には388人）の一途をたどっている。水産業においても、三島村近海は水産資源が豊富ではあるものの新規就業者が少なく、漁業者の高齢化と減少が著しいなど、若手漁業者の確保・育成が課題となっている。

一方、小中学校では「しおかぜ留学」という山村留学生制度を利用した留学生や島外から赴任している教職員の子供達が各学校の半数以上を占めている。これらの児童生徒の多くは、釣りや魚捌きの経験がほとんどなく、また、地元の児童生徒も漁家の子息が少ないことから、多くは魚に接する機会が少ない。

そのため、三島村漁協では小中学生を対象に、漁業への興味をもってもらい、併せて魚食の普及及び消費拡大を図ること目的に、三島近海の魚について学び、一本釣漁業や釣った魚を捌き食べる漁業体験を実施したので三島村と連携して支援した。

【普及の内容・特徴】

1 実施内容等

三島村漁協が漁業者、村民及び保護者等の協力のもと三島村全校（竹島・硫黄島各1校、黒島2校）の小中学生、教職員を対象に三島村の水産業に関する座学、釣り・魚捌き体験を実施

・竹島学園

令和4年9月29日～30日：座学、仕掛け教室、釣り体験、捌き方教室

・硫黄島学園

令和4年10月8日：座学、釣り体験、捌き方教室

・大里学園（黒島）

令和4年10月20～21日：座学、釣り体験、捌き方教室

・片泊学園（黒島）

令和4年22日、28日：座学、仕掛け教室、釣り体験、捌き方教室

2 支援の内容

上記の取組について、地域振興推進事業（鹿児島地域「漁業の稼ぐ力」向上支援事業）の活用を提案するとともに事業計画づくりを支援した。

また、実施に当たっては三島近海の魚や水産業に関する座学の講師、釣り体験、捌き方教室の協力員として支援した。

【成果・活用】

参加した児童生徒は楽しそうに目を輝かせていた。体験を通じて釣る楽しさ、地元の魚のおいしさ、そして水産資源が豊富な地元の魅力を感じてもらえたと考えている。今後、島内での水産物消費の拡大と漁業へ関心を持つ若者の増加が期待でき、また、山村留学生等による三島村の水産業の魅力の全国発信が期待できる。

継続を望む多くの声を受け、漁協は来年以降も実施する計画を進めている。



座 学



カサゴ放流



釣り体験



釣り体験



釣 果



捌き体験